

## 編集後記

年が変わっても、コロナ禍は収まるどころか、再度緊急事態宣言が発出され、いまだ収束の兆しは見られません（1月24日現在）。ワクチンや治療薬の早期開発・普及が望まれます。

誌上ギャラリーは、有馬義孝先生から「磯庭園と鷹匠」を頂きました。

論説と話題は、令和2年度会員受賞者として8人の先生方と4病院が受賞されたご報告です。受賞された先生方、病院の方々、おめでとうございます。また第51回桜島火山爆発総合防災訓練についてご報告頂きました。新臨床検査センターについては、令和3年1月4日より稼働を開始しました。今後とも会員の先生方のご支援・ご協力をお願い致します。

医療トピックスは、医師会病院薬剤師高橋武士先生より、消化器がん患者における経口抗がん剤の妊孕性障害について解説して頂きました。

学術は、鹿児島赤十字病院からご報告を頂きました。新型コロナウイルス感染症に関する貴重なご報告ありがとうございました。

医師会病院だよりは外科の紹介です。手術対象例や消化器がん化学療法についてご紹介頂きました。会員の先生方には、引き続き患者さんのご紹介をよろしくお願い致します。

随筆・その他は、古庄弘典先生から、切手が語る医学「医師・偉人 フレミング」です。武元先生からは、健診で血小板増加を指摘された症例をご提示頂きました。鹿児島大学の塚隆生教授による「地域に信頼され若者が活躍できる教室づくりを目指して」は、医療の領域のみならず、政治や地域社会、経営、子育てに至るまで多くの領域に言及され、大変読み応えがあります。リレー随筆は、今村総合病院研修医 黒岩俊志先生からご寄稿頂きました。浪人生時代のご苦労をユーモアたっぷりに書かれ、先生の謙虚な人柄を感じさせます。粟先生

他4人の先生方の「歌と写真で綴る薩摩の脇道」は、新年号に続く第2弾で、かなりの力作になっています。

特集は、令和2年第2号～令和3年第1号の誌上ギャラリー作品集です。いずれも先生方の力作揃いです。鹿児島ドクターズフォトクラブ会員の先生方、ご寄稿ありがとうございました。これからも、よろしくお願い致します。

各種部会だよりは、市内科医会例会を堀剛先生からご報告頂きました。その中で、鹿児島大学の橋口照人教授による「SARS-Cov-2検査の現状と考え方」は、マスコミがPCR陽性者の数を煽情的に報道するのみの今、まさに的を射た講演だと思われ、会員の先生方は是非ご一読頂きますようお願い致します。コロナ禍にある今、PCR検査（特に陽性）の真の意味を、今一度問い直す必要があるのではないのでしょうか。また市外科医会総会では、鹿児島大学の塚隆生教授による「若者が活躍できる教室づくりを目指して」という演題で特別講演が行われたことをご報告頂きました。

各種報告は、理事会の概要、委員会報告、第20回糖尿病医療連携体制講習会の報告、鹿児島市整形外科医会の鮫島浩司先生からは、鹿児島市整形外科の近況報告がありました。

附属施設だよりは、鹿児島市医師会病院や検査センター収支実績、検査実績の報告です。今後とも、皆様のさらなるご紹介・ご利用をお願い申し上げます。

鹿市医郷壇の題吟は「仮病（けびょ）」です。ご寄稿いただいた先生方、ありがとうございました。初めての先生方もどうぞ振るってご寄稿下さい。

社会生活、日常生活において初めて経験することが多い年でしたが、今年の後半こそは、マスクをせず外出でき、気兼ねなく会話、懇親会ができるようになることを祈っております。

（副編集委員長 佐藤 大輔）